

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 子ども未来サポートルームEL		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 20日		2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		2024年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校や園での運動場面を想定した運動療育を小集団で行っている。	心身の健康に大切な身体活動を60分間行うようにしている。	他者と協力して行うことができる内容を追加していく。スタッフの勉強会や研修を受ける機会を設け、質の向上を図る。
2	保護者の方と顔を合わせる頻度が高く、密に関わりを持っている。事業所の雰囲気などが保護者の方に伝わりやすくなっている。	家族送迎時に、療育内容や本人の様子など随時口頭でお伝えしている。また、本人の様子を実際に確認できるようにモニターでの療育見学を提案している。	多くの保護者の方に、実際の療育へ入っていただき、本人の状況や対応方法等を直接お伝えする機会を設けるようにする。
3	ABA(応用行動分析)を用いた関わりをしている。	困り事や困った行動に対して、ABC分析(出来事→行動→結果)を実施し活動を通して支援を行っている。	職員間で対応の統一を図るため、ABAの研修を受けていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流や、地域のこどもと関わる機会が少ない。	利用時間が短時間なため、時間が限られている。一般参加のイベントを行っているが、参加者が少ない。情報の発信不足が考えられる。	保護者を含めた勉強会の実施、また保護者同士が、悩みや情報共有できる場の提供を定期的に行う予定。情報伝達に関しては、ツールの活用を上手に行う。
2			
3			